

注目ポイント！

個性ある地域資源「赤れんが」を活用したまちづくりにより観光客を誘致。
港町を活かした漁業体験の実施。

観光客数が90万人(H7)から120万人(H17)に！



赤煉瓦倉庫群

コラム

舞鶴には、1901年の旧海軍鎮守府開庁以来の赤れんが建造物が数多く現存し、「赤れんがのまち」といわれている。特に市役所周辺では、旧海軍の遺産である赤れんが倉庫群や歴史的な建造物がまちのイメージを形成し、レトロな港町の雰囲気醸し出している。

小さな煉瓦遺構も含めるとその数は130件以上あり、全国屈指の残存件数といえる。

こうしたことから、市民と行政が一体となり、「赤れんが」を活用したまちづくりを進めている。

これまでの経緯

- | | |
|-------------|--------------------------------------|
| 平成 3年(1991) | まちづくり団体「城下町倶楽部」が発足する。 |
| 平成 5年(1993) | 「赤れんが博物館」がオープン。赤れんが建造物の転活用が本格的にスタート。 |
| 平成 6年(1994) | 赤れんが建造物の転活用第2弾、「市政記念館」がオープンする。 |
| 平成 8年(1996) | 舞鶴観光周遊バス「プリーズ号」が運行開始する(ワン・コインバス)。 |
| 平成10年(1998) | 「赤れんが」の縁により英国・ポーツマス市と姉妹都市提携。 |
| 平成11年(1999) | JR舞鶴線の電化開業、特急まいづる等が運行開始する。 |
| 平成12年(2000) | 体験漁業管理施設「しおのめ」がオープンする。 |
| 平成13年(2001) | 市民観光ガイドボランティア「けやきの会」が発足する。 |

主な取り組み

赤れんが倉庫群の保存・活用

赤れんが倉庫を博物館や多目的ホールなどを「憩いの場」に転活用し、NPO法人赤煉瓦倶楽部舞鶴を中心に市民との協働作業で魅力あるまちづくりを推進。

同法人が中心となり毎年開催する「赤煉瓦サマー・ジャズフェスティバル」は、夏の風物詩。また市政記念館西隣の赤れんが倉庫1棟を「智慧蔵」（仮称）として保存・活用する予定。

赤れんがの魅力と街の歴史を継承。



赤煉瓦サマー・ジャズフェスティバル

港町を活かした漁業体験

平成12年、漁村・漁業体験を支援する体験漁業管理施設「しおのめ」を整備。新鮮な魚介類を素材とした包丁教室や干物づくり体験等を実施。

都市と漁村の交流メニューを新たに創出し、人と人との交流によって地域の活性化が図られている。



漁業体験

城下町

16世紀末から江戸時代にかけて田辺（舞鶴）城の城下町として栄えており、現在の町割りは、当時の面影を残している。

幼少期から「ふるさと舞鶴」を知り、わがまちを愛する心が育まれるよう市民グループが工夫しながら“歴史のまちづくり”事業を展開している。



歴史教室

まいづる魚まつり

舞鶴の新鮮な海の幸が満喫できるイベントとして、市民参加のセリ市や海鮮バーベキュー、寿司即売などを開催。地域の大切な資源である「海」に携わる市民が、おもてなしの気持ちをふるまう舞鶴ならではの祭り。



まいづる魚まつり

問い合わせ先

舞鶴市産業振興室（舞鶴観光協会）

Tel: 0773 - 66 - 1024 Fax: 0773 - 62 - 9891

E-mail info@maizuru-kanko.net